

# 北東アジア地域環境体験プログラム

东北亚地区环境体验活动

동북아시아지역 환경체험 프로그램

Симпозиум для школьников региона СВА

по приобретению экологического опыта



テーマ「海洋環境保全 ～豊かな海づくりに向けて～」

2015年8月19日（水）～20日（木）

日本国 富山県魚津市、黒部市

主催：富山県、（公財）環日本海環境協力センター



## 北東アジア地域環境体験プログラム

### 8月18日（火）

- 16:30 ~ 17:30 国内参加者金太郎温泉（以下「ホテル」）到着
- 15:00 ~ 20:30 海外参加者ホテル到着
- 16:30 ~ 20:40 レジストレーション(滞在中の注意事項等) [ホテル1F ロビー] ※順次実施
- 18:00 ~ 19:30 夕食（日本・中国・韓国）[ホテル1F ガイア]
- 20:30 ~ 21:30 夕食（ロシア）
- 19:30 ~ 入浴、翌日の準備、就寝

### 8月19日（水）

- 7:00 起床
- 7:00 ~ 8:30 朝食 [ホテル1F ガイア]
- 9:20 参加者集合 [ホテル2F 翔華]
- 9:30 ~ 9:40 開会式  
開会挨拶  
— 富山県生活環境文化部 村椿 晃 (MURATSUBAKI Akira) 部長
- 9:40 ~ 10:30 参加者による活動発表（4団体）
  - ・ Act for SEA!（富山県） 【10】
  - ・ 遼東湾魚類資源の調査（遼寧省） 【11】
  - ・ テサモ（太白機械工業高校を愛する集まり）（江原道） 【12】
  - ・ 人と海洋生物は海岸の掃除屋さん（沿海地方） 【13】
- 10:30 ~ 10:40 休憩
- 10:40 ~ 12:00 参加者による活動発表（5団体）
  - ・ 美しい海岸を取り戻すための海岸漂着ごみ対策活動（山形県） 【14】
  - ・ 海岸環境の保全は一滴の水から（黒竜江省） 【15】
  - ・ 惜しみなく与えてくれる海—愛している海、ごめんね海、ありがとう海！（忠清南道） 【16】
  - ・ ハパロフスク地方はきれいな水域のため力を入れています！（ハパロフスク地方） 【17】
  - ・ さまざまな海洋体験活動を通じた海の理解と環境保全（慶尚南道） 【19】
- 12:00 ~ 13:00 昼食 [ホテル1F ガイア]
- 13:00 ~ 13:30 活動準備
- 13:30 ~ 14:30 ポスターセッション [ホテル2F 翔華]
  - ・ 活動発表内容のパネル展示、フリーディスカッション（質疑応答）
- 14:30 ~ 15:00 金太郎温泉出発、魚津水族館へ移動（貸切バス）
- 15:00 ~ 17:00 体験活動① 視察等
  - ・ 魚津水族館の取組み視察（学芸員が同行説明）
  - ・ 地域活動者\*との交流 [水族館1F 休憩室] ※取組発表、質疑応答等  
※魚津水族館サポーター清水さん、中村さん
- 18:00 ~ 19:30 参加者交流会 [ホテル1F ガイア]
  - ・ 地域の伝統芸能披露（地元若者による「よっしゃこい!!CHOUROKU」等）
  - ・ 各国参加者出し物披露
- 19:30 ~ 自由交流、入浴、翌日の準備等
- 20:00 ~ 21:00 引率者等の打合せ（翌日の日程確認など）[ホテル1F ゴールドクイン]
- 22:00頃 就寝

8月20日(木)

- 7:00 起床  
 7:00 ~ 8:30 朝食 [ホテル1F ガイア]  
 8:50 参加者集合、注意事項等の説明 [ホテル1F 花菱]  
 9:00 ~ 9:30 黒部市荒俣海岸へ移動(貸切バス)  
 9:30 ~ 10:10 体験活動② 海岸漂着物調査、清掃活動\*  
 - 講師: NPEC 調査研究部 島田部長  
 10:10 ~ 10:40 黒部市グリーンパークおおしまへ移動(貸切バス)  
 10:40 ~ 11:20 漂着ごみの分別、計測等(体験活動②の続き)  
 - 講師: NPEC 調査研究部 島田部長  
 11:35 ~ 12:00 金太郎温泉へ移動(貸切バス)  
 12:00 ~ 13:00 昼食 [ホテル1F ガイア]  
 13:00 ~ 15:00 体験活動③ 漂着物クラフト制作\* [ホテル2F 翔華]  
 - 講師: NPEC 調査研究部 島田部長  
 15:00 ~ 15:30 富山環境宣言 2015 の発表  
 閉会式  
 15:30 ~ 自由交流  
 18:00 ~ 19:30 夕食・お別れ会 [ホテル1F ガイア]  
 ・参加記念証の授与  
 ・記念品の交換  
 ・各国参加者出し物披露(前日の続き)  
 19:30 ~ 22:00 自由交流、入浴、翌日の準備等  
 22:00頃 就寝

8月21日(金)

- 7:00 起床  
 7:00 ~ 8:30 朝食 [ホテル1F ガイア]  
 エクスカーション、各自治体離県

自治体名	集合時間・場所	出発時間	交通手段
遼寧省	8:30 まで(1F ロビー)	8:30	地鉄観光バス
黒竜江省	8:30 まで(1F ロビー)	8:30	地鉄観光バス
江原道	8:30 まで(1F ロビー)	8:30	朝日観光バス
忠清南道	8:30 まで(1F ロビー)	8:30	朝日観光バス
慶尚南道	8:30 まで(1F ロビー)	8:30	朝日観光バス
沿海地方	8:30 まで(1F ロビー)	8:30	地鉄観光バス
ハバロフスク地方	8:30 まで(1F ロビー)	8:30	地鉄観光バス
山形県	9:30 まで(1F ロビー)	9:30	金太郎温泉バス
富山県	9:00 まで(1F ロビー)	9:00	各自

※ 8月20日(木)の体験活動②については、荒天の場合は「壁画制作」を実施

※ 【 】内の数字は、資料のページ番号を示します。

<発表活動以外の活動報告資料>

- ・オンセミロ(韓国江原道) 【20】

# Act for SEA!

- 1 自治体名 富山県立滑川高等学校 海洋クラブ
- 2 発表者名 (所属名) 発表: 寺西柚香、中島真美、松林麗奈、PC操作: 倉本翔花 (すべて海洋科2年)
- 3 活動名 Act for SEA! (1) 海岸クリーンアップ活動、(2) サクラマス放流、(3) アマモ定植 (ダイビング活動)、(4) 植林活動
- 4 活動期間 (1) 2003年から毎年実施 (2) 4月、6月、9月 (3) 9月 (4) 6月
- 5 活動場所 滑川市高月海岸 ((1) (3))、上市川 ((1) (2))、滑川市および魚津市 (4)
- 6 活動参加人数 年間ではのべ100名程度、1回あたりは最大40名
- 7 活動をはじめた経緯 学習活動の一環で校外での地域貢献活動を積極的に行う目的で、海洋クラブ会則に則って行動しています。

## 8 発表要旨

### (1) 海岸クリーンアップ活動

全国クリーンアップ事務局の方式により、2003年から毎年春と秋に海岸漂着ゴミの調査を行っている。蓄積されたデータから、漂着ゴミは「軽い材質の生活ゴミ」がほとんどであることがわかった。近年、年間に収集したゴミ量の合計は減少傾向にあるが、実感としてまだまだ解決していない問題だと感じている。

### (2) サクラマス放流

県内では絶滅危惧種となっているサクラマスの稚魚を2007年から放流している。以来、累積放流尾数は1万尾を超えた(2015年)。実習施設は成魚までの養殖が可能で、名産「ます寿し」の製造にも挑戦している。

### (3) アマモ定植 (ダイビング活動)

2007年から、ダイビング資格を持つ海洋科生徒が水槽で育成した海草類 (アマモ) を植えている。富山湾東部の沿岸は、周期的に海が荒れるためアマモ定植の挑戦は一進一退だ。近年、周辺を囲うブロックの設置や食害を受ける貝類の駆除などの工夫も試みられている。

### (4) 植林活動

2009年から、魚津漁業協同組合が取り組む植林活動に参加した。2013年には富山県の「森の祭典」が地元滑川市で開催され、話題の無花粉杉「立山森の輝き」を植樹するなど豊かな海づくりの多面的な活動の象徴となっている。



- 9 発表時の発表媒体の有無  
有 (パワーポイント)

## 遼東湾魚類資源の調査

- 1 自治体名：遼寧省環境保全ボランティア連合会
- 2 発表者名（所属名）：劉 禹来（瀋陽市東北育才外国語学校）
- 3 活動名：遼東湾魚類資源の調査
- 4 活動期間：2015年5月～7月
- 5 活動場所：遼寧省盤錦市二界溝鎮、丹東市大鹿島
- 6 活動参加人数：8人

### 7 活動を始めた経緯：

遼東湾盤錦市二界溝鎮と丹東市大鹿島の沿岸漁村に調査研究に行き、現地の漁民たちのお話を聞き、近年における魚類の変化について把握した。その後、海洋漁業管理機関にデータを調べに行き、データから魚類資源の変化について確認すると同時に、魚類資源減少の原因を分析した。また、科学研究機関ともお話しし、魚類減少の原因に関する分析の正確性について確認し、海洋魚類資源の合理的な利用について提案した。

### 8 発表要旨：

- ① 遼東湾魚類資源の現状
- ② 魚類資源減少の原因に関する分析
- ③ 海洋魚類資源の合理的な利用に関する提案

### 9 発表時の発表媒体の有無

有（パワーポイント）



## テサモ（太白機械工業高校を愛する集まり）

- 1 自治体名： 江原道 太白市
- 2 発表者名： 李 善煜（イ・ソンウク）
- 3 活動名： テサモ（太白機械工業高校を愛する集まり）
- 4 活動期間： 2014年～2015年6月30日
- 5 活動場所： 太白機械工業高等学校及び近隣の河川
- 6 活動参加人数： 15人
- 7 活動を始めた経緯：

山や川が交わる本校と近隣の河川の環境を綺麗で美しく維持するために様々な活動に取り組むことにした。

### 8 発表要旨

 <p><b>(1) 訪ねる環境サービス活動</b> 学校の環境保全のために環境サークルの学生は教室と事務室を直接訪ねて、ゴミやリサイクル用品を回収している。この写真は回収したリサイクル用品の一部である牛乳パックを綺麗に整理している様子。本校環境サークルの‘訪ねる環境サービス’の活動結果として校内ゴミの 90%以上を資源化している。</p>	 <p><b>(2) 野生花を育てる</b> 美しい学校を作るために環境サークルで野生花の苗を校内の花壇に植えている様子である。このように植えた野生花は毎年春から秋まで校内花壇のあちらこちらに綺麗な姿で咲いて香りはもちろん学校を美しく作り、学校を訪ねる地域住民も楽しんでいる。</p>
 <p><b>(3) 空き地の畑活動</b> 校内の空き地を利用して畑の雑草を取っている場面である。学校で飼っているウサギの排泄物を畑の肥料として活用し、綺麗で新鮮な野菜を栽培し食べることによって有機的な生態環境教育が校内で行われている。</p>	 <p><b>(4) 河川浄化活動</b> 本校と隣接して流れる洛東江上流河川の方で環境サークルの学生達がゴミを拾っている様子。長年、親しまれている洛東江を上流から綺麗に維持して保全し、下流の住民がきれいな水を飲むことができるように本校の環境サークルと太白市は最善を尽くしている。</p>

# 人と海洋生物は海岸の掃除屋さん

## 1 自治体名

沿海地方政府 天然資源・環境保全部

## 2 発表者名（所属名）

クジャエフ・ダニル（オレネヴォッド村第11号総合学校）

## 3 活動名

アムール湾の海岸および沿海地方ナデジディンスキー地区に流れる小川周辺の清掃活動

## 4 活動期間

2012年5月 - 2015年5月

## 5 活動場所

沿海地方、ナデジディンスキー地区、ヴォリノ・ナデジディンスコエ町、オレネヴォッド村

## 6 活動参加人数

35人

## 7 活動をはじめた経緯

アムール湾の海岸およびナデジディンスキー地区に流れる小川周辺にゴミがたくさん散乱していたため。

## 8 発表要旨（図表を含む）

年々自然水源の汚染がひどくなっています。海岸の主要な汚染原因の一つは、人間の活動によって発生する廃棄物です。

海岸を注意深く観察すると、海岸に打ち上げられた海藻の下に隠れている生物を始め、多くのことを発見ができます。自然なカムフラージュのために、この生物をすぐ見つけることが難しいです。

ペスチャンニー半島（Peschanyi）が位置するアムール湾の西側を調査しました。その調査と実験の結果から、海岸ではあまり目立たない「ヨコエビ」という生物について次のことを分かりました。涼しい場所を好むため、日中は太陽の光を避けて土壌の中や海藻の下に隠れています。暗闇の中では、光にする反応して集まってきます。自然の環境がないと、長く生きることができません。

ヨコエビは、海岸の掃除屋さんとしても大きな役割を果たしています。さらに、たんぱく質が豊富なヨコエビは、鳥や金魚のエサにも使われています。

私たちエコチームの主な活動は、アムール湾に流れ込む数多くの小川をきれいに保つことです。その活動の内容は次の通りです。

- 1) 水域での清掃活動の実施
- 2) 青少年や市民に対する川、小川、海岸の環境保全についての環境教育・普及啓発の実施
- 3) 地元の水域の研究及び保全に関する活動
- 4) 様々なレーベル（地区レーベルから国際レーベルまで）のコンクール、会議での活動報告

海岸は、私たちが住んでいる地域からすぐ近くにあります。長年、学校の生徒たちは休暇の目的だけではなく、清掃のためにもその海岸をよく訪れています。清掃活動の際は、全学年の生徒が参加しています。この地区の生徒が海辺の漂着物調査にも参加しました。今年もこのモニタリングに参加する予定です。

実施している行事の効果により、地区の衛生状態が良くなりました。また、小川周辺の環境に対する町の住民の対応も変わりました。私たちが行っている清掃活動、環境教育・普及啓発活動により、海域及び小川の汚染問題に注目が集まりました。



## 美しい海岸を取り戻すための海岸漂着ごみ対策活動

- 1 自治体名 山形県
- 2 発表者名（所属名） 武田航征（鶴岡工業高等専門学校）
- 3 活動名 美しい海岸を取り戻すための海岸漂着ごみ対策活動
- 4 活動期間 2010年～2015年
- 5 活動場所 山形県鶴岡市、酒田市（飛島）、最上川など
- 6 活動参加人数 10名

### 7, 8 経緯および要旨

漂着ごみで汚れた海岸を元の美しい状態に戻すために、学校と自治体とが協力しながら取り組む活動を2010年頃より開始した。清掃活動やごみ調査、ごみ発生抑制などの活動に学生が積極的に参加している。

### 活動内容

<p><b>(1) 海岸清掃活動</b></p>  <p>民間主催による清掃活動として、飛島クリーンアップ作戦やスポーツゴミ拾いなどのイベントが開催されている。毎回のイベントに学生が参加して美化に協力するとともに漂着ごみの現状を認識している。</p>	<p><b>(2) 流木の炭焼き</b></p>  <p>飛島で問題になっている流木の処理方法について検討を行ってきた。炭焼きによる処分の有効性を提案している。出来上がった炭は島の特産品である飛び魚の焼き干し加工の燃料に用いられるようになった。</p>
<p><b>(3) 環境フェアつるおかへの参加</b></p>  <p>鶴岡市内で行われる市民向けの大きな環境イベントに出展者として参加している。市民とともに漂着ゴミアート製作を楽しんだり、エコ実験では身の回りの河川水や雨水、水道水の水質を検査しながら環境保護や水の大切さを一緒に理解している。</p>	<p><b>(4) 河川ごみの調査</b></p>  <p>山形県を流れる最上川や赤川における河川ごみの現状を調査し、ごみの発生しやすい個所を見やすく説明する川ごみマップを作製した。海ごみの原因になっている河川ごみの排出抑制のための啓蒙資料として提供している。</p>

(発表時はパワーポイントを使用)

# 海洋環境の保全は一滴の水から

- 1 自治体名：中国黒竜江省北東アジア地域中学生環境体験団
- 2 発表者名（所属名）：徐 浚皓（ハルビン市蕭紅中学校七年）
- 3 活動名：海洋環境の保全は一滴の水から
- 4 活動期間：2015年3月～5月
- 5 活動場所：キャンパス、家庭
- 6 活動参加人数：50人
- 7 活動をはじめた経緯：
  - 1、クラスで環境保全活動グループを設立する。
  - 2、海洋を守り、節水しようと呼び掛ける。
  - 3、ポスターを作る。
  - 4、活動規則を決める。
  - 5、積極的に環境活動に参加する。

## 8 発表要旨：

### 一、海は人間に言う

私は海です。水です。私は大部分の地球を覆い、私は地球を作り出したのです。すべての河、すべての雲、すべての水がいずれいつか私の懐に戻ってきます。地球上のすべての生き物は私から離れることができなく、すべての生命が私から来たのです。人類の皆さんも例外ではありません。

しかし、私は皆さんに絶えず財貨を提供しているのに、あなた達はもらう一方です。いつもそうです。でも、いつか私も財貨を提供するのをやめるかもしれません。人類の皆さんは、貪欲で飽きることを知らないだけではなく、私に危害を加えようとしているからです。人類は自然界で生きていこうと思うなら、私と共存し、自然を守っていかねばなりません。

### 二、海洋環境の保全

- 1、海洋の生態系機能：海洋は人類に海洋食品（魚、えび、昆布など）や塩、ミネラル資源（ウラン、銀、金、銅等）を提供しています。海洋は気候を調節（二酸化炭素を吸収する）し、蒸発した水が雨として降り、また、エネルギーとして使うことができます（潮汐発電）。
- 2、海洋汚染の主な原因：重油流出、産業ゴミと生活ゴミの排出、生活排水の流入。
- 3、海洋汚染の危害：海洋汚染物質によって海洋食品が汚染され、この食品を介して人の健康に悪影響を及ぼします。また、魚介類を減少させ、人間の食物源を脅かします。同時に、プランクトンの減少をもたらし、二酸化炭素の吸収能力の低下につながり、温室効果を加速させます。さらに、海洋生物の死亡と奇形をもたらし、海洋生態系のバランスが崩れる事態を引き起こします。

### 三、私たちにできること

- 1、節水を心がけること。給水栓をこまめに閉め、流量を小さくする。積極的に節水設備（節水便器、節水洗濯機）を使用するなど。
- 2、水を再利用すること。野菜を洗った水を花にやる、顔を洗った水をトイレ掃除に使う、流水で茶碗洗いをしないなど。
- 3、せっけんなど環境に優しい洗剤を選んで使うこと。無リン洗剤を使うようにします。
- 4、生活の中での節約。紙の使用を控え、日常生活用品の節約を心がけることによって、産業廃水の排出を減らすことにつながります。
- 5、植生を保護し、木を植えて造林し、水源を維持します。

発表時の発表媒体の有無：有(Power point)

# 惜しみなく与えてくれる海—愛している海、ごめんね海、ありがとう海！

- 1 自治体名： 忠清南道鷄龍市
- 2 発表者名(所属名)： ヨンナム小学校学生5名  
コ・ギョンミン、キム・ヒョンホ、ヤン・ジュンギユ、ジ・テリム、チェ・ジンテ
- 3 活動名： 惜しみなく与えてくれる海—愛している海、ごめんね海、ありがとう海！
- 4 活動期間： 2015. 7.1 ~ 7.31
- 5 活動場所： 学校、舒川国立海洋生物資源館、始華湖潮力発電所、  
海岸ヌリキル(海岸沿いの道) (端山アラメキル)
- 6 活動参加人数： 5名
- 7 活動を始めた経緯：  
海に対する様々な体験活動を通じて、海について新しい理解を深めたり、豊かな海を作るために持続的で具体的な活動をして行くためのモチベーションを高めるために始めることにした。
- 8 発表要旨
  - (1) 概要： 生命の根源である海！ 無限の資源やエネルギーを惜しみなく与えてくれる海！ そんな大切な海を汚染していることに対する悲しみは‘ごめんね’というプログラムとして、海の資源の無限さは‘ありがとう’というプログラムとして、未来の海のための我々の努力は‘愛している’というプログラムとして体験活動を実施した。
  - (2) プログラム1 - ‘ごめんね海！’
    - ・海的环境汚染に対する深刻さを理解するための映像の視聴や討論を実施し、きれいな海のために実践できる方法を探す。
    - ・映像資料：ユーチューブ (YouTube) ‘ゴミ大陸地球の警告-死の災難’
    - ・討論内容：海ゴミが発生する理由、海ゴミの種類や危険性、海ゴミを無くす方法、きれいな海のために我々がやるべきこと。
    - ・結論：海に捨てられたゴミはロープ、ブイ、ペットボトル、ビニール、ガラス瓶などで、これらを見ると産業ゴミよりは生活ゴミの方が多い。人間の生活を便利にしてくれる物の使用後の処理を間違った結果である。このようなゴミは海の生物を脅かしたり生態系を破壊したりする。結局は人間の健康にも影響を与える。ゴミの処理方法についての研究や努力が必要であるとわかった。
  - (3) プログラム2 - ‘ありがとう海！’
    - ・国立海洋生物資源館と始華湖潮力発電所の見学を通じて、人間が海から与えられる様々な生命資源や大切なエネルギーについて理解し、海のありがたさを考える。
    - ・見学内容：国立海洋生物資源館を訪問し、展示解説士(者)の説明を聞いて様々な教育プログラムに参加し、資源館の外の干潟体験を行うとともに、始華湖潮力発電所を見学して潮力発電の原理を理解する。
    - ・結果：海の生物の多様性について理解することができ、海からの利益を知ることができた。
  - (4) プログラム3 - ‘愛している海！’
    - ・国土海洋部が選定した、海岸景観が美しく、海洋文化及び周辺観光資源が豊富な‘海岸ヌリキル-海岸沿いの道’の中で、地元から近い場所を探して、一緒に環境浄化活動を実施することによって、海の美しさを感じるとともに、広告(ポスター)やUCC(映像)を制作し、海の大切さを振り返る。
    - ・見学内容：端山アラメキルを歩きながら文化遺跡を探訪し、海岸沿いのゴミ拾いをする。
    - ・結果：海の保護ポスター、海を愛する内容のUCC を制作できた。

## ハバロフスク地方はきれいな水域のため力を入れています！

- 1 自治体名：ハバロフスク地方
- 2 発表者名（所属名）：  
アリョナ・セムチュック（ヴァニノ町、第3号総合学校）  
アレクサンダー・ポティカロフ（コムソモリスク・ナ・アムール市第14号総合学校）
- 3 活動名：水域の岸の清掃活動
- 4 活動期間：2014年4月－9月、2015年4月－6月
- 5 活動場所：ハバロフスク地方
- 6 活動参加人数：150,000人以上
- 7 活動を始めた経緯：汚染から水域を守るため活動を始めた

### 8 発表要旨

ハバロフスク地方はロシア連邦の極東地方の中心に位置しています。南から北までほぼ1800キロの距離があります。ハバロフスク地方はオホーツク海と日本海（間宮海峡）に囲まれています。地方では21万本の川が流れ、全ての長さを合わせると58万4千キロにも及びます。（それは赤道の長さの14倍以上になります。）川の大部分はアムール川流域に含まれています。アムール川はロシアの最も大きい川の一つです。また、ハバロフスク地方には5万8千の湖があります。

私たちは川辺、海辺の清掃に特に力を入れています。多くの利用者がゴミを放置していくということがよく知られています。そのゴミが分解されるまでにはとても長い時間がかかります。捨てられたゴミが川、湖、海に流れ込み、汚染された水域では生物が消えていきます。

水域汚染防止及び天然資源保全の必要性について、住民の関心を集める目的で、4月15日から7月末までの期間、ハバロフスク地方ではアクション「環境を危機から守るデー」が宣言されました。この期間中「アムール川デー」というイベントの枠組みの中で、川岸の清掃が行われます。各地域で実施されている「きれいな川」、「きれいな岸」等のイベントには、子供から大人まで多くの人々が参加しています。

さらに、毎年、ハバロフスク地方は「川と湖にきれいな岸を」というロシアの各地で行われているイベントにも参加しています。そのために、特に汚染されている個所を清掃します。最近では、回収したごみは必ず分別して処分しています。

このような活動は、地球上に生息するすべての生命にとって水が大切であることを改めて認識させてくれます。活動の目的は、自然を大事にすることを日ごろの当たり前のマナーにすることですが、自然を保護することは、天然資源をさらに増やすために不可欠なことです。

環境文化を育てる目的で、ハバロフスク地方では4年間、固形廃棄物工作コンクールを開催しています。この活動の目的の一つは、ハバロフスク地方の環境問題を解決するために、子供たちの積極的な姿勢を形成させることです。行事は以下のような流れで行われます。まず、固形廃棄物の問題について講演会が行われます。次に、地域の清掃活動を行います。そして最後に、廃棄物を材料にした作品を作ります。

毎年、秋季に、ヴァニンスキーとソヴェツコ・ガヴァンニスキー地区では国際的な事業である「海辺の漂着物調査」が行われます。

実践活動の他に、川、湖、海などの水域をはじめとする、環境問題について注意喚起する講座や、コンクール、フェスタ等の多くの啓発行事が行われています。

例えば、ヴァニンスキー地区では次の行事が行われます。「大洋は統一生態系」、「自然の中の相互関係」、「水の循環」という講演会、「どんな魚か当ててごらん!」、「一滴の旅」というゲーム、「水の世界を守ろう!」、「海の国際デー」というフェスタ等です。

ヴァニノ・タウンの校外活動センターでは、環境を大切にする必要性について住民の注意を向ける目的で、地元の新聞に記事を掲載しています。さらに、教師と生徒が「エコヴェスニック」という新聞を出版しています。その新聞で日ごろ行っている活動について紹介しています。

海岸、川岸の環境のお世話を私たちが引き受けます。それぞれの方が自分なりに自然保護に貢献できます。ポイ捨てしない! ゴミを持ち帰るように呼び掛ける! 清掃活動を行う! 環境を大切にし、身をもって大人と子供のお手本となる!



## 様々な海洋体験活動を通じた海の理解と環境保全

- 1 自治体名： 慶尚南道
- 2 発表者名（所属名）： チョン・ヒユン  
（統営中学校、サークル名： パダヤ サラン海-「海よ。愛している」）
- 3 活動名： 様々な海洋体験活動を通じた海の理解や環境保全
- 4 活動期間： 2014年3月～現在
- 5 活動場所： 慶尚南道統営市海岸一帯
- 6 活動参加人数： 合計 29名
- 7 活動を始めた経緯

- このサークルは科学や環境が好きな学生で結成された自律サークルです。

活動について討論していた中で、環境問題に関する意見が提示され、それから活動を始めました。2014年3月から活動を始め、昨年は捨てられたペットボトル、ガラス瓶、PVC管（塩化ビニール管）、木の板などを利用して創作楽器を作る活動をし、2015年3月からはサークルの近くに位置している統営の海の環境について興味を持ち、活動を始めました。歴史や文化の伝統都市であり、海洋水産活動を大事にしている都市である統営の海洋水産について理解し、さらに海洋環境の重要性に目覚め、海洋保全活動を持続的に推進しています。

### 8 発表要旨（図表を含む）

- この“パダヤ サラン海”は海洋水産都市である統営に住んでいる学生として 統営の海洋水産について、様々な活動を通じて理解を深めることや、さらに海洋環境の重要性に目覚めようという目標で ‘様々な海洋体験活動を通じた海の理解や環境保全’ という主題を決めました。それに合わせて地元にある海洋水産に関連する施設を探訪し、海洋環境保全活動のためのボランティア活動を推進しました。
- 2014年には周辺に捨てられている ペットボトル、ガラス瓶、PVC管、木の板などを活用して創作楽器を作る活動をしました。楽器がどのような原理で作られるのか科学的な探求もしましたが、周りに捨てられているゴミを再活用し、学生が直接手入れして仕上げた立派な創作楽器に生まれ変わる様子を見て、学生達は達成感を感じたりもしました。直接作った楽器を自由に叩いたり、演奏しながら、学生達はたくさん楽しむこともできましたが、それと共に環境の大切さや資源の重要性について深く考えるきっかけにもなりました。
- 2015年には海洋水産科学の都市である統営で海洋水産に関連する様々な施設を訪問し、海について探求したり、さらに海洋水産環境に対する大切さについて目覚める趣旨でも活動しています。学校活動では接する事ができない海洋水産のことは直接水産科学館や近隣の水産研究所を訪ねて探求をし、下水終末処理場を訪問し、我々が使った下水がどのように処理され、浄化され海に流れているのかについて知る活動をしました。このような様々な活動を通じて統営の海の環境に対するいろいろな問題について知ることができ、さらに海洋環境保全のために海洋ゴミの回収ボランティアを持続的に行っています。
- このような活動を進めながら統営の海洋水産について深く理解し、さらに海洋環境保全の重要性を知らせたいです。

### 9 発表時の発表媒体の有無

- 発表媒体： パワーポイント(PPT)
- 発表内容： ‘パダヤ サラン海’ の活動内容及び期待効果の提示
- 発表目次
- 緒論： 地元である統営は RCE 都市であり、海洋水産活動の都市として海洋環境の重要性
- 本論： ‘パダヤ サラン海’ サークルの活動結果や今後の活動計画
- 結論： サークル活動を通じての期待効果発表及び仕上げ



「自然そのまま」、「いつも変わる  
ことなく」という意味の韓国語

1. サークルの現況

サークル 会員	33名	分野	学術及び進路探索 自律サークル	関連教科	社会教科 科学教科	使用サー クル室	精進館 101
------------	-----	----	--------------------	------	--------------	-------------	------------

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 江原道教育庁地域特化教育課程の現場適用及び進路探索のための機会を提供する。</li> <li>・ 楊口地区の生態環境の特徴を正しく理解するとともに、これを土台にして環境を保全する。</li> <li>・ 社会科目と科学科目の学習内容を一緒に併せて文・理科統合型の思考力を育てる。</li> <li>・ 生態及び地形の価値とその利用可能性学習を通じて、絶滅危機生態の保全方案を模索する。</li> </ul>
共同研究 機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 江原道楊口教育支援庁</li> <li>・ 楊口郡庁</li> <li>・ 江原大学校DMZ支援センター</li> <li>・ 江原大師範大学地理教育科</li> <li>・ 江原大自然科学大生命科学科</li> <li>・ 楊口生態植物園</li> <li>・ 楊口DMZ生態観光協会</li> </ul>

2. 詳細活動内容 (2014年)

連番	日時	場所	活動内容	活動の様子										
1	2014. 5. 30 (金) 13:10~13:40	寄宿舎 101	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション</li> <li>－サークル組織</li> <li>－年間計画樹立</li> </ul>											
2	2014. 6. 13 (金) 13:10~14:00	修学 学習室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楊口地域の正しい理解</li> <li>－講師：アン・ユンジャ (AN Yunja) (楊口生態観光協会)</li> <li>－説明：楊口地域の歴史、文化、 観光地の概観</li> </ul>											
3	2014. 7. 11 (金) 13:00~16:00	頭陀淵 (Dutayeon Pond)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DMZ生態探訪 (頭陀淵を中心に)</li> <li>－分断 60年間保存されたDMZの生態系 を観察</li> <li>－分断歴史学習：戦闘慰霊碑、地雷体験</li> </ul>											
4	2014. 8. 8 (金) 09:00~14:00	大岩山 (Daeam Mt.) 龍沼 (Yong Marsh)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラムサール条約に登録された龍沼探訪</li> <li>－韓国の高層湿原龍沼の生態系観察</li> <li>－生態系からの湿地の役目の学習</li> </ul>											
5	2014. 8. 7 (水) 19:10~21:00	修学 学習室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特講</li> </ul> <table border="1" data-bbox="582 1780 1082 1960"> <thead> <tr> <th colspan="2">講師</th> <th rowspan="2">主題</th> <th rowspan="2">講義 形式</th> </tr> <tr> <th>姓名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キム・チャ ンファン KIM Changhwan 教授</td> <td>江原大 師範大学 地理教育科</td> <td>DMZは非武装地 帯ではなく夢を 作る場所だ</td> <td>講義式 (PPT資 料)</td> </tr> </tbody> </table>	講師		主題	講義 形式	姓名	所属	キム・チャ ンファン KIM Changhwan 教授	江原大 師範大学 地理教育科	DMZは非武装地 帯ではなく夢を 作る場所だ	講義式 (PPT資 料)	
講師		主題	講義 形式											
姓名	所属													
キム・チャ ンファン KIM Changhwan 教授	江原大 師範大学 地理教育科	DMZは非武装地 帯ではなく夢を 作る場所だ	講義式 (PPT資 料)											

注) DMZ：非武装地帯 (Demilitarized Zone)、韓国と北朝鮮の軍事境界線

連番	日時	場所	活動内容	活動の様子										
6	2014. 9. 12 (金) 13:00~16:00	白磁博物館	・陶磁器作りと博物館視察 －楊口陶磁器の歴史の学習及び陶磁器作り体験											
7	2014. 9. 19 (金) 13:00~14:00	コンピューター室	・企画案作成活動 －各組別組長会議 －活動資料展示会企画案用意 －役割分担											
8	2014. 10. 2 (木) ～10. 8 (水)	寄宿舎 101	・活動資料展示会準備 －写真展、活動資料ポートフォリオ、組別活動内容資料整理											
9	2014. 10. 9 (木) ～10. 11 (土)	楊口文化会館	・活動資料展示 －自然環境(植物、景観)関連写真 －活動姿の写真 －ポートフォリオ －陶磁器											
10	2014. 10. 17 (金) 13:10~15:00	修学学習室	・特講 <table border="1" data-bbox="592 1055 1078 1238"> <thead> <tr> <th colspan="2">講師</th> <th rowspan="2">主題</th> <th rowspan="2">講義形式</th> </tr> <tr> <th>姓名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>チョン・ヨンスク JEONG Yeonsuk 教授</td> <td>江原大 自然大学 生命科学科</td> <td>楊口の生態環境について</td> <td>講義式 (PPT 資料)</td> </tr> </tbody> </table>	講師		主題	講義形式	姓名	所属	チョン・ヨンスク JEONG Yeonsuk 教授	江原大 自然大学 生命科学科	楊口の生態環境について	講義式 (PPT 資料)	
講師		主題	講義形式											
姓名	所属													
チョン・ヨンスク JEONG Yeonsuk 教授	江原大 自然大学 生命科学科	楊口の生態環境について	講義式 (PPT 資料)											
11	2014. 10. 18 (土) 09:00~17:00	南楊州映画撮影所	・体験活動及び踏査 －韓国の映画の歴史学習 －映像機器作動法学習 －映像資料作成方法学習 －サークル活動状況資料の土台の簡単な映像作り											
12	2014. 12. 18 (木) 19:10~21:00	修学学習室	・キム・チャンファン (KIM Changhwan) 教授との討論 －主題「ラムサール条約に登録された龍沼湿原の価値」											
13	2014. 12. 30 (火) 13:10~17:00	修学学習室	・生態植物園イ・ヒョンミン (LEE Hyeongmin) 先生との生態学習											
14	2015. 1. 15 (木) ～1. 17 (土)	ソウル三成洞 COEX	・「第12回大韓民国教育博覧会」参加											

